Ⅱ 事 例 研 究

1，知能・学業に関する事例

(1) 知能検査による心理判定

語義	頭の働き。知恵の程度。大別して知的適応能力，理解・判断・抽象能力，学習能力の３種がある。
事例	知能検査による心理判定 特殊学級入級判定資料の作成
原因	
	(1) 生来の素質などの影響
	(2) 乳幼児期の栄養障害の影響
	(3) 家庭の文化水準などの影響
治療	
	(1) 生来の素質を伸ばす配慮をする
	(2) 栄養障害などの排除につとめる。
	(3) 言語性，動作性の均衡をとる。

① Ｔ・Ｓ（小２）

ＩＱ 言語性９１ 動作性１０１ 全 ９６

（普通知）ＩＱとしては問題ないが，消極的でことばがたりない。すぐ，かしこまって「はい」と返事し緊張する。数的観念に著しく欠ける，犬の足は「３本」１ダースは「１本」４円と２円では「５円」といった調子。

能力はあるのだから，足りないところを補ない，自信をもたせ，積極性を増せば伸びることであろう。

② Ｆ・Ｕ（小２）

ＩＱ 言語性９１ 動作性７４ 全 ８０

（下知）言語性と動作性がアンバランスである。従って団体テストではかなり低く出たことであろうと予測される。

経験を増やし，積極的にそれに取り組んでいくなどの指導が必要であろう。

経過の観察あるいは期間をおいて再テストが望まれる。

③ Ｈ・Ｆ（小２）

ＩＱ 言語性１１２動作性９４全 １０４

（普通知）現実的な面でのいわゆる生活の知恵はかなりもっている。

抽象等，質的に高度の知的能力を示している。いささかお調子にのるきらいはあるが，さらに情緒の安定を図ることにより伸びるものと思われる。

④ Ｔ・Ｉ（小２）

ＩＱ 言語性７３ 動作性７２ 全 ６８

（精神薄弱軽度）もしくは境界線級

積木模様にやゝ高い成績を示す所を見れば今後の指導により，ＩＱの向上を望めないものでもない。

きょうだいのことなど話してくれるが，ハキハキしない。消極的態度がみられる。

特殊学級での個別学習が適当と思われる。

⑤ Ｋ・Ｈ（小３）

ＩＱ 言語性６０動作性６４ 全 ５６

（精神薄弱軽度）判っているのか，判っていないのかも，わからない程，反応が乏しい。

符号問題で，ていねいに書き，いくらいっても，細部にかかわる。停滞して最初の一つをかくのに１分を要した。器質的な脳障害（てんかん）が推測される。特殊学級において心身の観察指導がのぞましい。

⑥ Ｈ・Ｆ（小５）

ＩＱ 言語性９１ 動作性９２ 全 ９０

（普通知）ＩＱに比し，知識が乏しい。学習の仕方の指導が必要と思われる。

通学にかなりの時間を要するという。それにエネルギーをさかれるのかも知れないけれども，直観的な洞察力もあり，知的には問題がない。

普通学級で，級友の協力を得ながら個別指導で伸ばすようのぞみたい。